

13年度に翔ける!

新看護管理者のプロフィールと所信③

北光記念病院 (札幌市東区)

及川 泰 子 看護部長

個を大事にしたマネジメント推進、 循環器看護のエキスパート育成



社会医療法人社団カレスサッポロ北光記念病院(櫻井正之院長、125床)の新看護部長には、及川泰子氏が就任しました。

及川看護部長は、新卒で入職した北海道大学病院に36年間勤務し、副看護部長職で退職。その後、恵佑会第2病院勤務を経て、今年4月に就任し、これまでの経験を生かした看護マネジメントに取り組んでいます。

北光記念病院に赴任し、「とにかく看護スタッフの方々が真面目で一生懸命」という印象を強く抱き、個々の看護師のレベルの高さにも驚かされました。「個々のスタッフは、さらに自律して、行動できるように、コミュニケーション

の活発化など、それぞれの能力がより発揮されるような環境を強化していきたいですね」。

看護マネジメントで大事にしていることは、個を大事にすることと、何事もシンプルにすること。

「患者さんはもちろん、職員それぞれの個を大事にしていきたいと思っています。自分が大事にされなければ、相手も大事にできません。その意味で、看護師が生き生きと働ける職場づくりはとても大事です」。

また、同病院看護部創設期から大切に受け継がれている「人間相互の慈愛と信頼」という理念についても、マネジメントにおいて大事に実践しています。

同病院は、循環器に特化した急性期病院として、地域貢献を第一に掲げた医療を展開していますが、そうした専門性をより重視した看護マネジメントも意識しています。そのため、本年度の看護部

方針に、「質の高い循環器看護の実践」を盛り込み、専門性の向上を第一に掲げました。「私たちは、循環器看護のエキスパートとして、より質の高い看護を目指していかなければならない。患者一人ひとりを尊重しながら、看護プロセスの開示・説明や、意思の表出、自己決定の支援などができ、暮らしの中に継続できる患者さん中心の看護を実践していきたいですね」。

このほか方針には、「看護職の成長への相互支援」、「地域とともに創造する看護」を掲げていますが、そうした方針のもと、北光記念の目指す看護を進めていく考えです。

看護の質向上に向けた新人研修、既卒者研修・ラダー別研修等の継続教育については、「ここまですべて充実しているとは、本当に素晴らしい」と高く評価し、既存の充実した教育体制を、さらに検討して取り組んでいきます。

本年度は「厳しい状況」であったと振り返る看護師確保については、看護学校の訪問をはじめ、同病院看護部のよさを、外部へさらにアピールしていく必要性も感じています。そうした取り組みも、随時、展開していきたい考えです。また、看護学校との連携は、「さ

まざまな情報をいただくことができ、とても勉強になる」とも感じていることから、機会を捉えて交流を深めていきます。

多忙な毎日ですが、時間を見つけては病棟を回り、患者との会話を習慣にしています。患者とのコミュニケーションからさまざまな気づきもあることから、そうした気づきを、患者サービスの向上、経営効率の改善などに繋げていきます。